山口東京理科大学薬学部設置促進
並びに利活用調査特別委員会記録

平成２９年６月２７日

【開催日】　平成２９年６月２７日

【開催場所】　第１委員会室

【開会・散会時間】　午前１０時～午前１１時１０分

【出席委員】

委　員　長	長谷川　知　司	副　委　員　長	吉　永　美　子
委　員	岩　本　信　子	委　員	大　井　淳一朗
委　員	杉　本　保　喜	委　員	中　村　博　行
委　員	山　田　伸　幸		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議　長	尾　山　信　義	副　議　長	三　浦　英　統

【執行部】

副市長	古　川　博　三	総合政策部長	川　地　諭
企画課長	河　口　修　司	企画課課長補佐	河　田　圭　司
企画課主査	村　田　浩		

【事務局出席者】

事　務　局　長	中　村　聡	議事係長	中　村　潤之介

【付議事項】

１　山陽小野田市立山口東京理科大学の利活用について

午前１０時開会

長谷川知司委員長　皆さんおはようございます。山口東京理科大学薬学部設置促進並びに利活用調査特別委員会を開催いたします。今日の付議事項と

しましては、大学の利活用についてということに皆さんの意見並びに執行部のほうの考えをお聞きしたいと思います。最初に執行部のほうから山口東京理科大学の利活用についての説明をお願いしたいと思います。

河口企画課長　おはようございます。よろしくお願いします。本日、お手元にお配りしました資料、山陽小野田市山口東京理科大学連携状況一覧ということで、これに沿いまして簡単ではございますが説明をさせていただきます。本市では「山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、山口東京理科大学を本市発展の核として位置づけ、大学を活用した地域創生を基本的な視点の一つとして取組を進めております。山口東京理科大学が私立であったときから、山陽小野田市と山口東京理科大学との連携に関する協定を締結しており、公立化された平成２８年４月１日からも引き続き以前から実施しています「かがく博覧会」や「ほんものの科学体験講座」等を行っております。また、公立の理工系大学が立地することで、産学官連携を更に推進し、大学の持つ知的資源を市内の小・中学校や高校における理科教育への支援や市民への生涯学習などにも活用しており、教育環境の向上につなげているところでございます。現在、理科大学と連携しております事業について御報告をさせていただきます。市内小・中学生が普段実験できない科学実験を体験できる「ほんものの科学体験講座」、山陽小野田市・山口東京理科大学連携協議会が主催する「山陽小野田市かがく博覧会」、審議会等への人的連携として、教職員等が委員として参画していただける「男女共同参画審議会」、「山陽小野田市産学官連携推進協議会」、「山陽小野田市地域公共交通会議」、「山陽小野田市中小企業振興協議会」、「山陽小野田市都市計画審議会」、「第二次総合計画構想審議会」などがあり、審査員等として参画していただいている「女と男の一行詩」があります。また、理科大生が委員として参画していただいています「第二次総合計画策定事業」の若者会議や若者の意見を聴取いたしまして意見をいただきました「自治基本条例見直し検討事業」等がありました。大学におきまして、レノファ山口パートナーシップ事業といたしまして、公式戦のパブリッ

クビューイング等も実施していただいたところでございます。今年度におきましては、インバウンドの取組を進める中で通訳の確保は重要であり、観光案内や情報発信等の観光振興を図る活動に自主的に参加しやすい体制を整え、留学生の理科大生に参画してもらい、おもてなしサポーターへの登録をお願いし、理科大と連携してインバウンドへの取組強化に努めたいと考えておるところでございます。また、長年実施してまいりました図書館の相互貸借や市広報の「理大つうしん」、ホームページ等の相互リンクにつきましては、引き続き連携してまいりたいというふうに思っております。以上が、現在までの理科大学との連携をしている現状でございます。現在としては、今のところ今までの連携をしたことについての御報告をさせていただきました。以上です。

長谷川知司委員長　ただいま、執行部のほうから現在行っている連携状況ということで説明がありましたが、これについてまず最初に何か質疑がございましたら。

杉本保喜委員　例えば、商工労働課のほうの三つの会議や協議会については、大学側としてはどのレベルの方たちの参加を、こちらから要請しているのでしょうか。

河口企画課長　それぞれ協議会、会議によって違いますが、理科大の学長さんを委員としてお招きしたり教授の方を委員として迎えたりしておるところでございます。

古川副市長　商工労働課の三件につきましては、山陽小野田市産学官連携推進協議会は、市長、学長、両商工会議所会頭で協議会を作っておりまして、その下に幹事会を設けておりまして、幹事会は、市は産業振興部長、両商工会議所は専務理事、理科大のほうは地域連携室長が出ておりまして、事務レベルの話はそこで行い、上のレベルでは市長等々で行っております。後の二つは基本的に教授が出ております。

岩本信子委員　ここに連携の状況の一覧が出ておりますが、社会教育との連携、例えば市民向けの講座をやってみるとか、そういうのが必要で、今から多分されるんではないかなと思うんです。その点はどのように考えてらっしゃるのかなと思いますが。

古川副市長　毎年一回、教育文化講演会という特別講演会を行っております。これにつきましては、議員の皆様にも案内を出しておるところでございますが、昨年は二人しか来られませんでした。去年は、脳を鍛えるトレーニングということで、諏訪東京理科大学の篠原先生にお話をいただきましたし、今年は薬学部ができるということで、理科大の池北理事長にお話をいただくようにしておりまして、基本的に健康関係となりますので幅広く市民にもＰＲをしていきたいというふうに考えております。

岩本信子委員　教育講演会もあっていいんですけれど、記念講座みたいに一回二回とかやるんじゃなくて、例えば年三回とか四回とか継続的に行われる市民向けの講座みたいなのを、市民の本当に日常の勉強会みたいな学習していく習慣というか、そういうふうな講座のことを言っているんですけど、どうでしょうか。考えていらっしゃいませんかね。

古川副市長　工学部関係の理工系の大学ですので、なかなかその辺のなじみがないというのも一つあったと思います。今後は、薬学部が設置されますので、今岩本議員さんが言われたようなことは、今度は薬学部の先生が基本的に健康のこと、薬の選び方とかそういうことでできるんではないか。また、大学のほうでもそういうことも視野に入れながら考えていらっしゃるというのは聞いております。今現在はそこまでは行っておりませんけど、今後そういう流れといいますか動きも出てくるというふうには考えております。

岩本信子委員　私は、工学部みたいな専門的なことを勉強したいと言っている

わけじゃない。やはり大学ならそれなりの教養の先生たちがいらっしゃるじゃないですか。教養セミナーみたいな講座があるんじゃないかと思うんですけど。そういう先生たちにお願いして、市民向けの講座とかをされたらいいのかなと思ってますので、大学のほうもそのようなことを考えていらっしゃると言われるから。ここに先生のシーズ集って書いてありますけど、例えば４５ページの池田容子先生の話なんか聞いてみたいなとか思ったりするんですよ。そういうふうなことで、難しい話じゃなくて教養講座的なものでと思っておりますので、そういう教授を選んでいただきたいなと思います。

古川副市長　今、市民教養講座でサイエンスカフェというのを市立図書館でやっておられます。それと、教養の先生ですけど、基本的に文科系の教養の先生がほとんどいらっしゃらないというのも実情でございまして、そこまではまだ行ってないんですけど、今後そういうような流れといいますか、地域貢献というのが一つの大きな命題になってますし、今の理事長はそういう方向も考えていらっしゃいますので、薬学部ができた時点でそういう方向も考えられるというふうに考えます。（「はい、よろしくお願いします」と呼ぶ者あり）

岩本信子委員　大学から市民向けということで言ったんですけど、今度は市民から大学向け。というのが大学は大学祭があったり、それは地域の人たちが行って盛り上げんといけんと思うんで、一体化するというのは。もうちょっとイベントの宣伝みたいなものを、市全体で取り扱っていただきたいなと思うんですけれど、市民が大学に向かっていくというそういうふうな考え方はいかがですかね。（発言する者あり）それが大事ですよ、市民がいかに大学に関心持つか、この大学を利用するかという部分で。

河口企画課長　地域の方ですので、どういうふうな手法を取ってやるかっていうのはありますけど、大学通信、広報ですね、その辺で竜王祭とかの御

案内とかも出てきていると思います。当然、そのときに言って協力というのはなかなか難しいと思いますので、その辺は今後また、大学との連携を図る中で協議しながら地域との関わりというのは考えていくべきかなとは思います。

大井淳一朗委員　今、学祭の話が出たんで。昨年まではどちらかというと身内だけの学祭だったんですけど、公立化になってから割と地域の方も入ってきて、市の関係もステージに出たりして今までと雰囲気は違っていた感じ。なので、今後もその辺って進めていかれると思いますけどね。(「情報を市全体に流してほしいなと思う」と呼ぶ者あり)

長谷川知司委員長　私、近くなんですが、普段でも大学の中に入りやすいようにおいしい食べるもの、食堂とかあればですね。まずそこからなんですね。またできれば。（「だから、市民が大学を・・・」と呼ぶ者あり）

杉本保喜委員　おもてなしサポーター事業を今年度実施予定ということで記入されておるんですけど、観光課から大学に向かってどのような話が持ち込まれておるんでしょうか。

河口企画課長　今観光課のほうで確認しているんですが、基本的に中国の留学生の方がおられるので、まだ今からという形になるんですけれども、その方々がインバウンドの関係で通訳等の需要があれば対応していただけるというような話はしておるということも聞いていますし、旅行案内等の翻訳等についても考えておるということで、その辺で留学生等については対応していくということで話は聞いております。まだ実際には需要とかがないような状況ですので、今はそういうお願いをしている段階ではあるということを聞いております。

長谷川知司委員長　留学生というのは主にアジアの系統で。中国。ちょっとそれだけ。

河口企画課長　一応、中国の留学生というふうにはお聞きしております。

杉本保喜委員　実は、おもてなしサポーター事業そのものが、観光課から説明を受けたときに、取りあえず今度やるのは、参加してくれる商店のほうに、地域の説明しているパンフを置いて、案内してもらえるような形にしたいというようなことも聞いた。だから、大学にもちょっとした観光案内ができるようなミニの形を置くつもりがあるのかなと思った。今説明聞くとそうではなくて、その地域を教えてもらうと。当然、最初からそれでないと本当はいけないんですよね。それで自分たちで勉強して地域を知って一緒に歩いて山陽小野田を知ってもらうというシステムでないとおかしいなと思っている。いきなりおもてなしサポーター事業ということでぽんとここに出てきて連携っていうのが見えないんです。総合政策のほうでどういうふうに話を聞かれているのか。

川地総合政策部長　このおもてなしサポーター、２９年度から始まりますけども、今議員さんがおっしゃるとおり基本的にはお店を介して観光案内をするようなシステムになってますけども、この理科大生の活用ということでちょっと側面が違いますけども、先ほど企画課長が申し上げましたように、ちょうど留学生がいらっしゃいますので、その方々を有効利用しながらやっていこうといのも、一つのこのおもてなしサポーターの一事業です。それから昨年から観光に関しましては、おもてなしサポーターとはちょっと違いますが、このおもてなしサポーター以外に、大学生を活用してワークショップも結構やっています。この表には入っていませんけども、そういったことで若者から見た観光行政ですとか、大学生から見た観光施策についての検討も観光課が中心となってやっていただいている。今後もこういうのを有効活用していかなければならないかなというふうには思っています。

大井淳一朗委員　今少し観光の話が出たんで。一昨年度ぐらいに観光のワークショップを理科大生でやったと思うんですが、そこの何か成果というか

出たもので、市政に生かされたものとか生かされようとしているものがあればお示しいただければと思います。

川地総合政策部長　特に総合政策部に直接の報告は受けてませんけども、先ほど言いました留学生の活用といったものが挙げられるんではないかというふうには思っています。ただ、具体的に方向性の報告は正式には頂いてません。

大井淳一朗委員　初めて聞いたときは、いい心掛けだと思ったんですけども、こういったものを継続的にやっていく必要があるかなと思ったんですが。最近ないような気がするんですが。これ、原課に言うことかもしれませんが、ちょっと状況を教えてください。

河口企画課長　今年はまだ開かれていないようですが、昨年度はウォーキング大会とか運営ボランティアとして学生に参加してもらうとかということで、地域を知ってもらおうといういい機会になったということで報告いただいております。

杉本保喜委員　今、理科大は学生のボランティアが地域に出る、そのための心得とか、非常にシステムが出来上がっていると思っているんです。特にボランティア活動をするための心掛けとしては、これが必要だよということも学長のほうからもちゃんと出てると。ですからすばらしい体制が整えられていると私は思う。ところが、ちょっと話に出たように、うちのほうが非常に中途半端的な取扱いをしている。例えば幾つかやりましたよね。これなんか年中行事として学年が変わればまた参加できるというようなシステムにしないと、思い付いたようにやったって参加する学生は増えませんよ。去年俺は参加して面白かったぞ、今年も６月にあるからお前行かんかっていうような声が出るぐらいに定例化しないと、何事も裾野は広がらないんです。その辺がうちのほうはいつも駄目なんです、尻切れとんぼ。ボランティアの育成にしてもしかり。だからその辺

は大学側のほうからプッシュしてほしいと思うんですね。例えば観光課やなんかに今度いつやるの、学生たちは期待しているよとか、そういうようなプッシュをやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

古川副市長　大学のほうのことは大学の自治がありますので、ここでは答えられません。

長谷川知司委員長　学生も、公立化になることによって定員が大分増えてきて、学生数がだんだん増えればまたもっとにぎやかになると思いますが。

中村博行委員　中国の留学生を活用しようということでありますけども、中国の方は何名ぐらいいらっしゃるんです。

古川副市長　たしか五、六名だったと思うんですが、詳しい数字はちょっと忘れました。

中村博行委員　活用はいいんですけど、そういう人たちの支援というかサポートというのは、そういう体制は大学のほうと市のほうで何か具体的な支援策みたいなことはやられているんですか。

古川副市長　市のほうでは、ないとは思うんですけど、学生さんは大体日本語をある程度話される形で入ってこられますので、その辺のサポートは大学のほうではある程度されてはおると思いますが、市のほうではまだしてないと思います。

中村博行委員　山口市なんかでは民間で留学生を支援するというようなグループがあって、よく新聞にもテレビにも出たりしてるんですけども、そういうふうな取組も民間サイドで必要じゃないかと思いますんで、そういう働きかけというのはやっぱり必要かなと思うんです。

杉本保喜委員　今の中で、例えば山口市なんかはいわゆる盗難車、引取り手のない自転車なんかを修理して、留学生に提供するということもやっている。何らかの形で支援もできると思いますので、考えていただきたいなと思います。それからもう一つ。うちの市はモートンベイ市と姉妹都市ですよね。だから一枠、留学生をモートンベイ市から養成するというようなシステムがあってもいいんではないかと思うんですけど、いかがですかね。

古川副市長　これも大学のほうでどのように考えられるかとの問題だと思いますし、市のほうが姉妹都市だから一枠設けてとかいうのも難しいでしょうし、相手のほうが御希望されるかどうか、また大学のほうがどのように考えられるかということになろうかと思いますので、市のほうでどうかいうのは先ほど申しましたように、基本的にそういうものの考え方も全部大学の自治、憲法２３条に大学の自治として大学の運営なり教育については、大学のほうがやるということになってますので、そういうところまではちょっと市のほうから言うのは難しいんじゃないかというふうに考えます。

杉本保喜委員　確かに言われるとおりだと思うんですけども、何らかの形、例えばモートンベイ市にうちの市のほうから、うちの大学が公立化しましたと､是非受験しませんかという働きかけはできると思うんですけれど、いかがですか。

古川副市長　合併してモートンベイ市となってこのたび２５周年でしたか、そこまで合併してからそんなに行き来もない、向こうもレッドクリフが合併してモートンベイ市になった。今回こちらのほうも新しい市長になりましたので、書簡の交換はするようにはしておるんですが、まだそこまで行ってない。今後、どんどん交流が深まったらそういうことも話せるかなという気はいたしております。

山田伸幸委員　かがく博覧会のことなんですけど、私も何度か行って担当の大学の先生ともお話をしたんですが、本当に大学研究の良さっていうのがあの中にはなかなか出しにくいという話を聞きました。というのはやはりスペースの関係もあって、小・中学生が中心になっていて、大学の真髄を御披露するというところまでなかなか行かないんだというふうなことを言っておられたんですが、そういった展開といいますか、せっかく公立化されたんですから、この山陽小野田市にある大学として大学研究のすばらしさをアピールできるような場でないと、かがく博覧会という名にふさわしくないんではないかと。ある先生も、これはただの展示会であって、博覧会というにはちょっとおこがましいですよねということを言っておられたんで、それは非常に印象的な言葉だったので、今後、何かそういう大学のすばらしさをアピールするような場が設けられるかどうかというのをちょっとお聞きしたいんですが。

古川副市長　今でも研究室公開ということで、去年も１１月でしたか、ここのシーズ集に載っているいろんな先生方の研究室を一般の人に公開するということもやっておりますし、高校のほうには先生のほうが出前講座ということで出向いて授業なりもされております。研究室公開、なかなか来られる方も少ないんで、ＰＲの仕方にも問題があったかもしれません。今後は少し形を変えて会議所を通したりということでやっていこうというふうには考えていらっしゃるようです。

杉本保喜委員　高校のほうに出向くというのは非常にいいと思います。それと、うちの市立の中学校に回っていただくというのも一つの方法だと思うんですけど、いかがですか。

古川副市長　一番上に書いてあるのは、ほんものの科学体験講座という中で、小学校、中学校には要望がございましたら先生方が行って授業をされております。

長谷川知司委員長　これ、テレビでも放映されたですよね。（発言する者あり）

杉本保喜委員　どのぐらいの要望があって、実績ですね。

古川副市長　昨年が１１校からございまして、全部で１６回ございました。これは教育委員会のほうを通しての要望でございます。

長谷川知司委員長　一応、現在の状況というのは皆さん分かられたかなと思いますが、今後、薬学部というものが認可されるものという見方の中で、今後の薬学部を含めた形での利活用ということで考えがあれば、執行部のほうからお聞きしたい。

川地総合政策部長　先ほどから出ていますように、市民をいかに大学で巻き込むかということもあろうかと思いますし、総合戦略の中でも市民に対するリカレント教育とか生涯教育とか、その辺がまだ今後という形になりますんで、薬学部も含めてそういった形で取り組んでいきたいという思いがあります。これは、いつからかというのは薬学部が開設してみないと何とも言えないところがありますけれども、そういったところに関しましては積極的にやっていきたいなというふうには思っています。

長谷川知司委員長　今までの特別委員会の中で話が出ていたのが、商工会議所の連携。これについて、具体的に報告できることとかあればお聞きしたいと思います。

古川副市長　先ほど申しました産学官連携協議会の中で定期的に会合をもっておりますし、理科大の先生も会議所のいろんな委員会に出て説明なり発言もされております。今一番大きい流れが、山陽の会議所も小野田の会議所も会報というのを月１回出されております。その会報に先生方の研究、ここに載ってあるＡという先生の研究、Ｂという先生の研究を毎月１回会報に掲載していただいて、広く会員の皆様方にＰＲしていただい

ておるということが去年から新たにスタートしたところでございます。

吉永美子副委員長　先ほど薬学部ができれば、健康に関する内容も出てくるんじゃないかというお話があったんですが、本日頂いている連携状況一覧の中には、健康福祉部に関する課が全くないという状況です。薬学部ができることによってこういった福祉の関係というのも事業として挙がってくる可能性は大いにあるというふうに認識してよろしいでしょうか。

古川副市長　当然、健康増進課を中心とした中での流れは出てくるというふうには考えております。

吉永美子副委員長　実際に、市健康福祉部関係そのものとは違うんですけども、社協との関係の中で、先日ふれあい運動会があったときに学生の方もボランティアで来ていただいているというふうに聞いておりまして、そういった活動をされていることがもっともっと市民に響いていくといいなというふうに思ったんですね。その中で、大変具体的過ぎるかもしれませんが理科大生が来てますということで帽子とか着ているものでアピールができるものを、是非理科大として考えていただくようにお願いをしていただけると、大きい子供とかおられて、ああ、あの人が理科大生かなと思いながら見てはいたんですけど、高校生もおられますのでそばに行けば何とか高校生とあったから分かるんですけど、やっぱり理大生が要はいろんな場面で頑張っていただいているということ、もっともっとアピールをしていただけると学生自体も理大生さんですかって声掛けていただいたりとかしていけば、また喜んでいただける面もあるのかなと。やはり、いろんなところから理大生が来られているわけですが、卒業して全員が山口県内にもちろん残っていただけるわけではない中で、ある面一つのふるさととなるような、そういった山陽小野田市の中での活動が、心の中に、彼らの中に残っていくといいなという思いを持っておりますので、是非、先ほど申し上げたようなことを進めていただけたらと思った次第です。

中村博行委員　企業誘致の関係でですね、薬学部ができるということで県等々でそういう問合せとか、薬学に関係する企業などからそういう問合せなどが現在あるのかどうか教えてください。

古川副市長　企業からというより、逆に薬学部が認可を受けて動き出しましたら、当然、行政のほうも大学のほうもこういうような形で山口東京理科大学に薬学部ができるということで、そういうような関係の企業にも当然挨拶といいますか、話には行くことにはなろうかとは思います。今、基本的に関心を持ってらっしゃる企業のほうが一つ二つはあったように聞いてますけど、基本的には今後認可されてこちらのほうからちゃんと挨拶、それからＰＲに行くような形になろうかと思います。

杉本保喜委員　宇部のほうは大学生に向けて防災ボランティアを募るということをやっている。うちの市も９月頃から始めて３月末には決定していきたいというような話があったんですけど、何か具体的に進みつつあるんですか。

古川副市長　消防の関係の、（「あれ何て言う」と呼ぶ者あり）（「消防団」と呼ぶ者あり）学生の消防団という話は今、宇部・山陽小野田の消防局のほうからお話がございまして、来年の４月になろうと思いますが、それに向けて進んではおるように聞いております。

吉永美子副委員長　先ほどちょっと関連するんですけど、薬学部ができることによって健康福祉部の事業も出てくる可能性があると。そうなってくると、いわゆる住民との関わりというはとっても強くなっていくと思うんですが、今現在商工労働課が主管としてされておりますけども、産学官連携推進協議会ということで、ここには将来的には産学官民連携推進協議会という形が立ち上げることができるかどうか、そういったふうに発展してほしいなと思っているんですけど、お考えとしてはいかがでしょ

うか。

古川副市長　そこまでどのようになるか、先の先まではまだちょっと分かりませんが、取りあえず今は産学官の中で動いて、今副委員長さんが言われたように、薬学部ができて市民のとなれば、そういう発展的に前に進むと思いますけど、取りあえず産学官で進んでいくと思います。

岩本信子委員　薬学部ができるということで、薬草園の話が出ていましたね。それが、例えばうちの江汐公園に造るとかいう話なんかもあったんですけれど、そういうふうな話が進んでいるかどうか、薬学部の薬草園についてのことをお伺いしたい。

古川副市長　一般質問でも成長戦略室長が答弁いたしましたように、薬草園は大学の敷地内に一つと江汐公園の第二駐車場下に一つ造る形で申請は進んでおります。

吉永美子副委員長　以前質問させていただいております若者会議ということで、山陽小野田市で初めて若い人たちの意見を聞くという会議ができたわけですが、これは提言はいただかない。ということで、であるならばきちんとこういうふうに頂いた意見が総合計画の中に反映をされていますよという言葉は戻してほしいことは以前申し上げさせていただいたわけですが、そういった形をきちんとできるかという一点と、以前副市長が言われた若者、ばか者、よそ者と。これは私に学長も語っていただいたんですけど、そういった方々の意見ってとっても貴重なものになると思いますので、こういった理科大生の意見を今後も取り上げて、まちづくりの中でこれはいいなというものはきちんと取り入れるという流れというもの、事業というものを作っていただきたい。ここでスパーンって終わってしまうっていうことはもったいないと思っているんですが、今後の考え方について教えていただけたらと思います。

村田企画課主査　第二次総合計画を策定するにあたりまして、昨年度に２回ほど若者会議を、１１月と１２月に開催しております。それぞれ市内の高校と山口東京理科大学に募集いたしまして、参加したいという子たちは大体十六、七名いたんですが、２回なかなか高校生と大学生で日程が合わないこともありまして、結局参加は第１回、第２回ともに七、八名程度だったんですが、それでも自分たちが参加したいと言って積極的に出てくれた子たちだったんで、ものすごく積極的に意見を言っていただいております。その内容につきましては報告書を作っております。それをホームページのほうにも掲載しておりますし、報告書のほうも子供たちのほうにお配りしております。今後、総合計画の基本計画等を策定しておるんですが、その中に当然、報告書の内容につきましても参考にしながら入れ込んでおりますし、どのようにその意見を入れ込んだかといったことも最終的に子供たちのほうに報告しようと思っております。そういったことで、自分たちの意見がどのように総合計画に反映されたかというのが分かって、今後の自分たちの社会生活の中にも役立っていくんではないかと思いますんで、しっかりと報告まで行っていきたいと思っております。意外と積極的な意見が出ましたので、今後もこういった若者会議というのは開催していけたらといいなと思っております。

川地総合政策部長　今のは総合計画の関係ですけども、この表にも出ていますけど、自治基本条例でも理科大生が入られて、ちょっと予想はしてなかったんですけど、極めて具体的な意見をお持ちなんですよね。こういう意見というのは本当に大事にしなければならないなとは思っております。ただ、今は市がこういう形でこのテーマを与えて参加しませんかというやり方をしていますけど、本来でいう若者会議は自分たちがテーマを見付けて勉強されて意見をまとめられて、市のほうに提言とかという形が、吉永副委員長の言われる形かなとは思うんですが、ちょっとまだそこまで行き着いていませんので、今どちらかというと模索中というところが正直な話でございます。

杉本保喜委員　今の件に付け加えてもらいたいのは、さっき申しましたように定例的に行うようにしないと、尻切れとんぼになるし、せっかくの提言も次にあの提言が出たんならこれもあるんじゃないのという発展的なものが出てくると思うんですよね。その発展的なものが出たら、それをどこに出すかというのも明確にしておかないと、途中で火が消えてしまうおそれが出てくるということですよね。その辺も含めて、是非検討していただきたいと思います。

川地総合政策部長　貴重な御意見ありがとうございました。それも含めまして、今後の課題とさせていただきます。

杉本保喜委員　実はこの前大学のほうに工事状況を見に行ったときにお話を伺ったんですが、学生寮ですよね。現状では非常に少ない環境の中にある。今度、女子大学生がどんどん入ってくるという環境の中でですね、先生にお話を聞くと、研究が非常に活発になってくると女子寮が欲しいんだと。野田学舎のほうも女子寮を大きく造って民活化しているというようなことも話を聞きました。やはり、市のほうももっと積極的に今からベーシックなものから造っておかないと、学生がどんどん増えていけば間に合わなくなると。もう一つは安全ですよね。その辺を考えたときにどうすべきかということをしっかり理論構築、計画的なものを作る必要があると思うんですが、いかがですか。

古川副市長　来年の４月、薬学部が設置されれば１２０人ずつ学生が増えます。薬学科ですから多分、６割から７割は女子学生だろうというふうに先生方も言われております。今すぐ右から左に寮というわけにもいきませんけども、１２０人が２年後には２４０、３６０。そうした中では、杉本委員さんが言われたようなことも当然念頭に置きながら考える必要があろうかと。今は、とにかく校舎ができることに全身全霊を傾注いたしておりますので御理解ください。

大井淳一朗委員　全体的なことなんですけれども、まさに今皆さんが企画として出られておりますけども、大学の特性を生かしたまちづくりをしていく中で、杉本委員が言われましたことも含めて住環境の整備もあるし、学生の卒業後の就職とか雀田のトイレのこともありますし、いろいろですね公共交通もあるし、そうした全体のまちづくりをやっていかないといけないと思うんですが、今全庁体制で大学の特性を生かしたまちづくりについて、現状はどのような形で体制作りをされようとしているのかについてお答えください。

河口企画課長　代表質問でも話がありましたように、ここで定住していただきたいという部分、就職もしていただきたいという部分、それぞれの分野といいますか課によってそれぞれの施策を行いながら、全体的に通して見たときに仕組み作りができているというような形になるような、各人が一つの方向性、同じベクトルを向きながら施策を展開していくということによって、大井委員さんが言われましたように、そういうような仕組み作りができてくるのではないかというふうに考えておるところです。ちょっと甘いかもしれませんが、今のところそういうお答えでございます。

大井淳一朗委員　方向性はそれでいいんですが、薬学部は認可される見通しということで、その後、今もなんですが大学の特性を生かしたまちづくりをやっていく中で、もう今の段階から全庁体制でやっていかなければいけないんですが、今その大学に特化した話とかいうのはないんですか。

川地総合政策部長　どこに視点を置くかによるんですよね。大学に視点を置くのか、市民に視点を置くのか、更には、大学生に視点を置くのか。これによって、全庁体制でやると思いますけども、どこの課がやっていくのか。産学官でしたら商工ですし健康福祉というのも出ましたし。こういった横断的なことがいろいろ考えられるんで、実のところ言いますと、私どもも試行錯誤しているというが実際の状況なんですよね。今、建設

関係にウェイトをかなり置いていますんで、建設関係については計画的に進んでいます。運営交付金の関係についても、これはもう始まっていますんでいいんですけど、総合戦略にいろいろうたっていますような形について、全庁体制でやるにしてもどこかにある程度責任を持ってやってもらうというシステム作りが要るんで、この辺について現在協議をしているという段階です。これについて、やはり総合計画との絡みがございますので、今の段階ではちょっとまだどうなるかというのは申し上げられませんけれども、その辺も含めて総合計画の中で検討をしているという状況でございます。

大井淳一朗委員　当然、多岐にわたるからこそ全庁体制ということですので、白井市長が成長戦略でかつてやろうとしていたのが、うまくいかなったところがあるんで、副市長がいらっしゃるんで副市長が頭でいいとは思うんですけども、どっかの課が頭とかいうんじゃなくて多分皆さんそれぞれ主従はないと思うので。ただ、取り仕切る人は誰かというと、成長戦略室がなくなりつつあることを考えれば副市長かなと思うんですが、このイメージはあくまでも一つの意見なんで、参考にされてくださいとしか言いようがない。副市長は、その辺のお考えはいかがですか。

古川副市長　今回の組織の改編で、大学推進室というのを設置させていただきます。あそこは、大きな目標としては薬学部の新設、それと部長が申しましたような運営交付金とか、今後定款なり中期目標の改正等々の根幹に関わることはそこがやっていくような形になるだろうというふうに考えております。大井委員さんが言われたように、理科大をいかに活用するまちづくりをするところのキーの部署はどこかとなると、大きな意味でのまちづくりというと、総合計画を作っていてどのような形で出すかというのが一番の命題でございますので、企画なり総合政策部のほうになろうかと思います。しかしながら、総合政策部で所管の違うようなところも出てくるとは思いますので、基本的には大学推進室のほうが中心になってやっていくような形になるんだろうなと。当然、その上に副市

長というポストがございますので、大井委員が言われたように横断的には調整させていただこうというふうには考えております。

山田伸幸委員　大井さんも少し最初触れられたんですが、私の昨日の一般質問でも取り上げたんですが、公共交通が大学に対してどのような手助けというか、これはブログだったかフェイスブックだったかな、受験生の親が書いてたと思うんですけど、厚狭駅に降り立って厚狭駅に来るというのは分かったんだけど、そこから大学まで行くにも行けなかったと。乗り継いで乗り継いで非常に苦労したという話が書かれてあったんですけど、今の状況では本当玄関口と行きたいところまで行けないという状況があろうかと思うんですが、幸いにも川地さんという専門家もいらっしゃいますし、もともと商工労働で頑張っておられた（発言する者あり）副市長もいらっしゃいますので､これはもう本当昨日の答弁聞いていて、産業振興部ではもう無理なんかなというような感想を率直に受けたんですよ。昨日、答弁聞かれながら今の実情からではこのまちの発展というか、大学を生かす生かすというけれど生かしようがないんではないかなと思うんですが、その辺での御意見をお聞きしたいんですが。

古川副市長　公共交通に関しては、産業振興部商工労働課が鋭意やっているというふうに私は理解いたしておりますし、私も川地部長も専門家でもございませんが、一応かつてその辺の仕事に従事したということの中で、山田委員さんが言われるように、入試のときの流れ、ああはいっても地方試験も７か所でやっておりますので、一気に山口東京理科大学で全部の受験生が来るということではございませんが、今おっしゃいましたように、多分薬学部の試験のときには、県外の人は広島とか福岡とか岡山でもやっていますので、そちらのほうに結構流れるんであろうと思います。しかしながら、やはり県内の人でも厚狭駅に降りてどういう道順でというのはいらっしゃいますので、多分その辺は大学のほうで試験の対応については考えると思います。それ以外のことを山田委員さんも言われたと思うんですけど、それについては商工労働課といいますか産業振

興部で公共交通の見直し、デマンドそれこそ玉野市にも出向いていって、よく先進地を見るように私のほうも指示していますので、文化も歴史も違うんでそこがイコール山陽小野田に生かせるということではないと思いますけど、いいところは参考にさせていただいて、言葉は悪いんですけどいいとこ取り、参考になるようなところはつかめるように、先進地である玉野市へ行ってよく勉強してくるように職員には指示はいたしております。産業振興部、頑張っておりますので期待をお願いいたします。

大井淳一朗委員　先進地に行かれるのも当然いいんですけども、ここで正に市の拠点である、山口東京理科大学が生かせると思うんですよね。御承知のように、オンデマンド方式、東大方式について、研究されたことがあってですね、オンデマンド方式が地域公共交通の全てを語っているわけではないんですが、それも含めた公共交通の在り方についてですね、何らからの教授の力をお借りできるのであれば、議会もいろいろ考えておるけどなかなか難しいみたいで、正に市と連携して専門家の力を借りることできるのではないかと思うんですが。その教授の方がもしかしたらいらっしゃらないかもしれませんが、そういった考えがあると思うんですがいかがですか。

古川副市長　専門の教授がいるかいないかというのはちょっと私もそこまでは承知していないんですけども、学生の卒業研究でテーマにしたのは、最近出てきていますので、それをもう少し使えるような形というのは、また今後とも大学のほうにお願いなり協議ができるんではないかというふうには考えます。

岩本信子委員　いろいろと話を聞いていて一番思うのが、理科大に対しての市民の地域間の差がすごくあると思うんです。今言われたように南のほうの人たち、大井さんにしても委員長にしても理科大に近いところじゃないですか。そうすると、それなり皆さん関心があるんですけれど、厚狭の一番北のほうの厚狭の駅から向こうとかの人たちは、理科大に対して

のその意識とか期待感とかそんなにないんですよね。本当、向こうのほうの方の期待感は多いんですけど。というまちじゃいけないと思うんですよ。第二次総合計画とかいろいろ立てられていくと思うんですけれど、是非大学が市民全体で厚狭地区の人たちもこれを生かしていけるという思いになるような計画とかアクションプランとかを立ててほしいなと。これ、要望したいと思いますので、とにかく市民に一体感がないというのは理科大を見てても何か分かるんですよね。だから、チャンスにして是非生かしていきたいなと思うんですけど、お願いします。

古川副市長　はい、分かりました。

山田伸幸委員　２年前だったと思うんですけど、研修で金沢に行ったときに金沢大学キャンパスが会場だったんですね。金沢大学はもともと市の中心部にあったのがまち外れに移転して谷を挟んだ山合いに造られて、そこを公共交通のバスがぐるっと全部回るようになっているんですね。市民の方がそこに段々の池みたいなのを造られていて、流れもあるんですね。そういったところで子供連れで楽しんでおられる。まさに、大学内なのに市民が行って憩いの場になっているというのを見たんです。そういったまちの人たちの憩いの場でもあるというのが、非常に印象的に残っておりまして、やはりこれもそこまで車で行かなくてもバスが連れていってくれていましたので、気軽にそういったこともできるということのあかしだったと思うんですが、そういった気軽に行けるような大学とまちの一体感というのを検討していただきたいなというふうに思います。

杉本保喜委員　ちょっとお尋ねしますが、今まではいわゆる大学用のバスですよね、小野田往復それから新川往復。このバスは現在も従来どおりで動かしているんですか。

古川副市長　今年度も同じように動いています。

杉本保喜委員　その費用というのは、これからも大学のほうから出すということになるんですかね。

古川副市長　基本的には大学のほうで出します。

杉本保喜委員　先ほどから話題になっている地域公共交通機構の形がうまくできるようになれば、そのことも必要でなくなるであろうと思うんですけれど、そういう面からも地域公共交通機構の見直しっていうのは非常にウェイトが大きいというふうに思うんですよね。それから、あちこち下宿を目的としてアパートがいっぱいできてます。そういう辺も各アパートが有効活用されるかせんかっていうのも、地域公共交通機構が大学に向かってもっと使い勝手が良くなれば、先ほど言った受験生のお母さんが悩むということもなくなってくるということにつながっていきますので、是非大学側も知恵を頂きながら早くこれを具現化するように、当局のほうとしてやっていただきたいと思いますがいかがですか。

長谷川知司委員長　先ほど副市長も言われましたように、地域公共交通については産業振興部のほうでやっているということですから、それは担当委員会のほうでもっとハッパをかけていただくというほうがいいと思います。（発言する者あり）

岩本信子委員　最後に一つ、認可についてなんですけど、７月とか８月とか聞くと７月には出る。（発言する者あり）だから、８月って聞いたら今度９月でしょ。はっきりと出るのはいつなんですか。それがすごく気になって、こういうのっていうのは、日にち、去年聞いたときには７月って聞いてたんですよ。８月って今度聞いてて、９月。その辺をはっきり聞きたいんですけど。

古川副市長　多分、７月っていうのはなかったと思うんですが、それはいつ出すかは文科省の（発言する者あり）権限。基本的には８月の終わりか９

月の初め。そうしないと入試のほうの流れが動けませんので。推薦入試とかがありますので、８月の終わり９月の初めには出していただく。当然、文科省のほうも入り口論じゃないですけど、入試の動きのことも考えて、認可を下ろして来るだろうというふうには考えます。

岩本信子委員　内示とかいうそういうのはないんですか。

長谷川知司委員長　ちょっと答えられないと思いますが、それは。

大井淳一朗委員　先ほど岩本委員が言われた地域間の格差にも少しつながるんですが、既に皆さんは頭の中にあるとは思うんですが、確かに大学周辺のところが栄えることはそれはそれでいいんですが、あそこだけで全部何やらかんやら建つことはキャパ的に不可能なんです。山陽小野田市全体でカバーしていく形が求められると思いますが、なかなか寂れている状況になっている駅南ですよね。あそこの開発を考える際に、例えば薬学部の女子寮を厚狭駅南に造るとか公営住宅を造るとか、いろいろ話がある中でそうしたことも市のほうが誘導していくという形を取られるべきだと思うんですが、その辺は今後考えられていると思うんで、意見として述べさせていただきます。

長谷川知司委員長　今の関連ですけど、例えば受験生が来たときの旅館、ホテルですか､こういうものは大学のほうで案内は出されると思いますけど、本当に市内の業者の人を網羅してされているのか。また、アパートについても、不動産屋さんを通してされているとは思いますけど、実際、不動産屋さんを通していないアパートもあると思うんですね。そういう方たちもきちんと網羅するようにしていただきたいというのが、地元への還元になると思うんですが。そういうことは今後検討していただきたいと思います。大学ができるということで、公立化そして薬学部ができるということ、そのことによって市民にどのように還元されるのかと。その還元が、市民がよかったんだというようになるというのが一番大事だ

と思うんですね。広い意味で言えば、大学が攻めていっていろんな形で市民に還元ができるということが一番いいんですけど。そういったことで、市民が今後を期待していると思います。皆さんの言いたいことだと思いましたが。

山田伸幸委員　先日から、大学周辺へ行くたびに工事の状況を見るんですけど、来年２月２８日までに必ず完成しておかなくちゃいけないというふうにこの間言ってこられたんですが、進捗状況はどうなんでしょうか。

古川副市長　順調に推移しておるというふうに聞いております。

山田伸幸委員　というのも、まだ土台ばっかりしか工事してないように見えるんですよね。これからパネル等がどんどん運び込まれて、それが組み上がっていけば、ああできたなという実感になろうかと思うんですが、実際のところ５階まで組み上がるのは大体いつ頃ぐらいなんですか。御存じであれば。

古川副市長　そこまではちょっと承知いたしておりません。すいません。

吉永美子副委員長　今後、薬学部ができると状況が変わるかもしれませんが、市内の高校において推薦のお願いしてもなかなか出てこないというところで、どういうふうに分析されて、また薬学部ができることによってそういったところはまた変わってくるだろうというふうに思っておられるのか、今の現在の分析と今後の予想について分かればお聞きいたしたいと思うんです。せっかく市内なのに、ここは大学としても大変残念に思っておられるみたいなので、ここへ何とか進めていただきたいという思いがございますが。

古川副市長　この４月の入学生も市内の高校から少なかったということの中で、当然、大学のほうの教職員が学校訪問とかで回っております。去年もこ

の時期、私も回りましたので、そうした中で市内の高校にも頻繁に足を運んで地元の大学、特に地方創生の中で東京一極集中は避けるべきだ、いかに地元の大学に入って地元に就職するかというのも、地方創生の中に出てきておりますので、その流れもありますし、副委員長が言われたように山陽小野田市立の大学ですので、できる限り市内の高校、また市内に在住の方が入れるように、また入っていただけるように大学のほうもその辺は精力的に動いておるように聞いております。

吉永美子副委員長　お聞きしたなぜ少ないかという分析自体はまだなかなかできていないということでしょうか。それと、薬学ができれば状況は変わると。（「うん」と呼ぶ者あり）ということで、今後に期待いたします。

長谷川知司委員長　一応、皆様から意見をお聞きしておりますし、今後薬学部というものがきちんと認可されれば、それについて報告もあると思いますし、工事の進捗度合いについてもそのときに併せて報告があると思いますし、なければこちらからまた再度お聞きしたいと思っています。ということで、今日は一応、大学についての利活用ということで、現在と今後について皆様から意見を聞きましたが、ほかにないようでしたらこれで終わりたいと思いますが、どうでしょうか。いいですか。では、執行部のほう、ありがとうございました。これで、山口東京理科大学薬学部設置促進並びに利活用調査特別委員会を終わらせていただきます。

午前１１時１０分閉会

平成２９年（２０１７年）６月２７日

山口東京理科大学薬学部設置促進
並びに利活用調査特別委員長　　長谷川　知　司